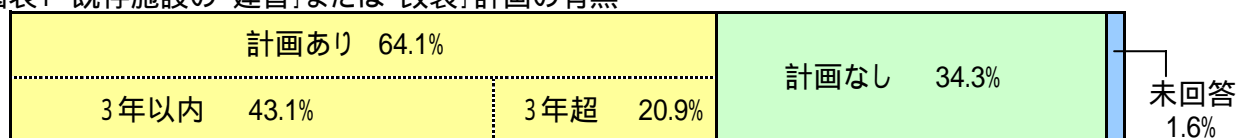


「病院事業に関するアンケート」調査結果解説資料

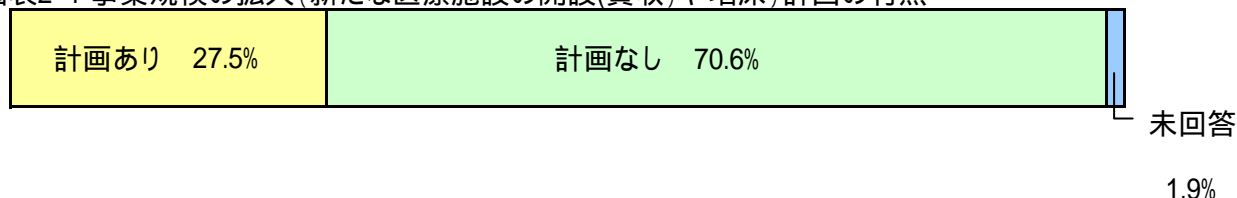
1. 今後の設備投資計画について

- ・今後、「既存施設の建替」または「改装」を計画している事業者は回答事業者全体の64%を占め、さらに3年以内を実施を予定する事業者だけでも43%にのぼり、今後の病院経営において設備投資が喫緊の課題となっていることが伺える結果となった(図表1)。
- ・また、「新たな医療施設の開設(買収)」や「既存施設の増床」のような、事業規模の拡大を計画している事業者も28%あり(図表2-1)、病床規模別にその内訳を見ると150床未満の事業者の割合が高くなっている(図表2-2)。

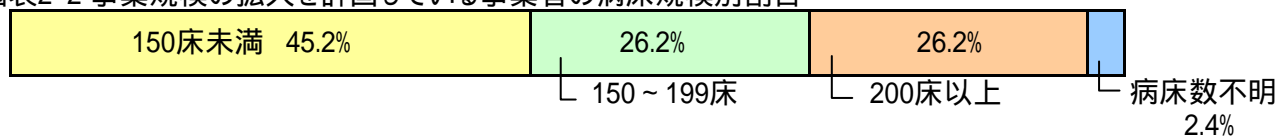
図表1 既存施設の「建替」または「改装」計画の有無



図表2-1 事業規模の拡大(新たな医療施設の開設(買収)や増床)計画の有無



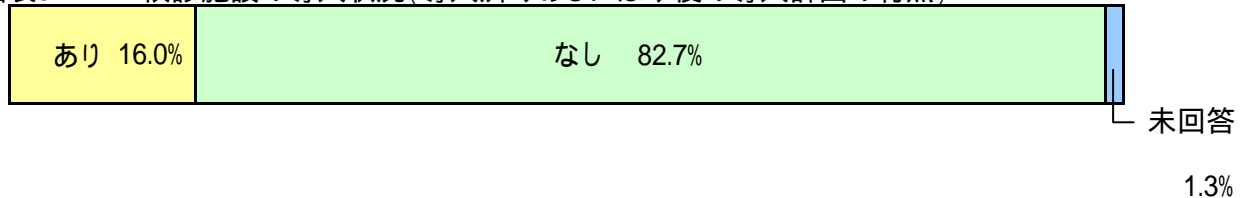
図表2-2 事業規模の拡大を計画している事業者の病床規模別割合



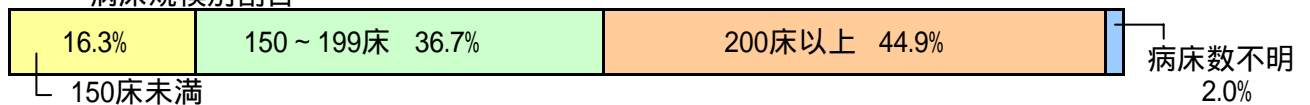
2. 高度検診・治療機器の利用について

- ・PET検診施設を「導入済」あるいは「今後導入を検討」している事業者は16%となっており(図表3-1)、その内訳を病床規模別に見ると規模の大きい事業者の割合が高くなっている(図表3-2)。
- ・がん治療において近年注目される重粒子線施設について、会員組織による共同利用型施設が開設された場合の「利用希望」を問うたところ、27%の事業者が利用を希望する結果となった(図表4)。これを上記のPET施設との関連で見ると、PETを「導入済」あるいは「今後導入を検討」しているとした事業者では、重粒子線治療施設の利用希望が57%(図表5)となり、PET検診と重粒子線治療の関連の深さが伺える。

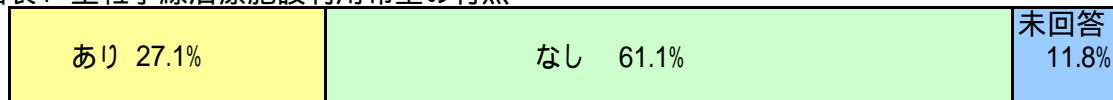
図表3-1 PET検診施設の導入状況(導入済みあるいは今後の導入計画の有無)



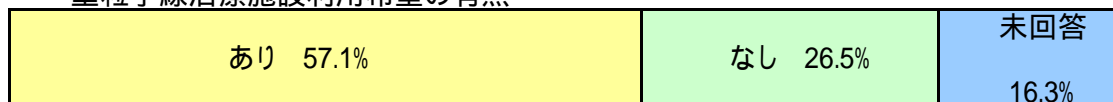
図表3-2 PET検診施設を「導入済」あるいは「今後導入を検討」していると回答した事業者の病床規模別割合



図表4 重粒子線治療施設利用希望の有無



図表5 PET検診施設を「導入済」あるいは「今後導入を検討」していると回答した事業者の重粒子線治療施設利用希望の有無



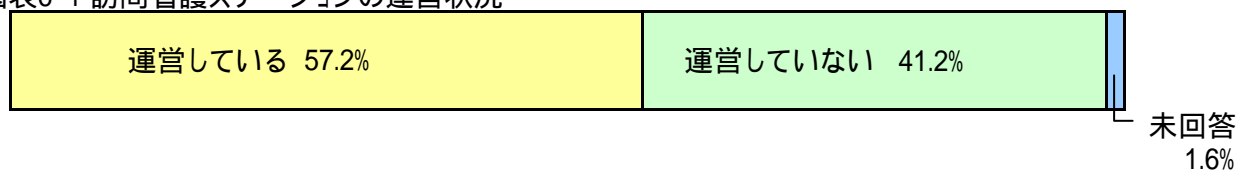
3. 病院関連事業・介護関連事業への取組みについて

・病院事業と密接に関連する訪問看護ステーション運営の状況については、運営している事業者がやや上回るものの、顕著な傾向は見られず(図表6-1)、その内訳を病床規模別に見ても同様であり(図表6-2)、事業者の指向に一定の方向性は見られない。

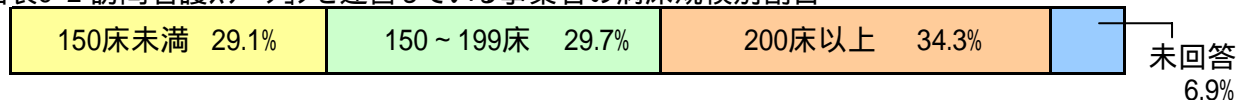
・一方、介護関連事業を行っている事業者は70%となっており(図表7-1)、運営事業者の病床規模別割合に差異はあまりない(図表7-2)。また、今後の展開も「拡大方向」が49%、「現状維持」が50%となっている(図表8)。病院経営者の介護分野への関心の高さが伺える結果となっている。

・また、現在介護関連事業を行っていない事業者においても、このうち25%の事業者は今後進出を計画している(図表9-1)。これを病床規模別に見ると、150床未満の病院を運営する事業者が59%を占めており(図表9-2)、比較的小規模の事業者の介護事業への進出意欲が高くなっている。

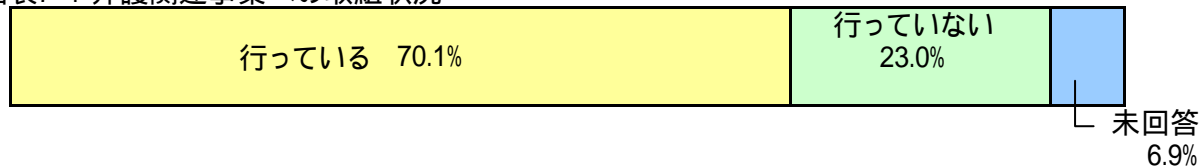
図表6-1 訪問看護ステーションの運営状況



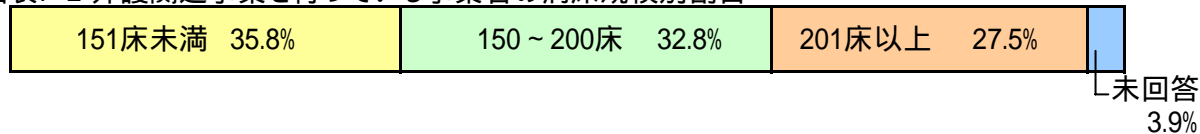
図表6-2 訪問看護ステーションを運営している事業者の病床規模別割合



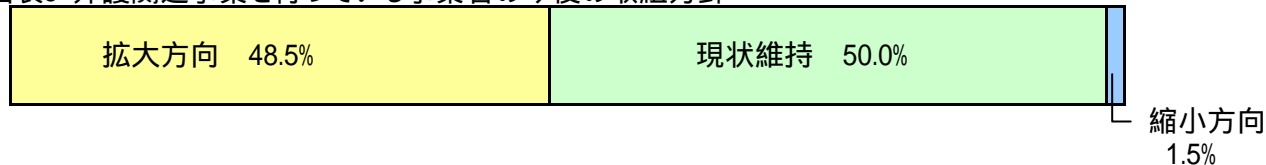
図表7-1 介護関連事業への取組状況



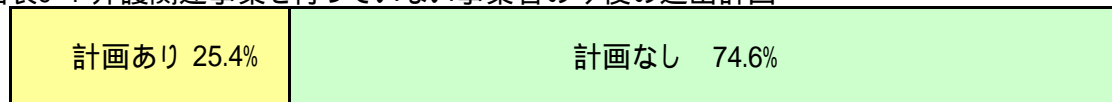
図表7-2 介護関連事業を行っている事業者の病床規模別割合



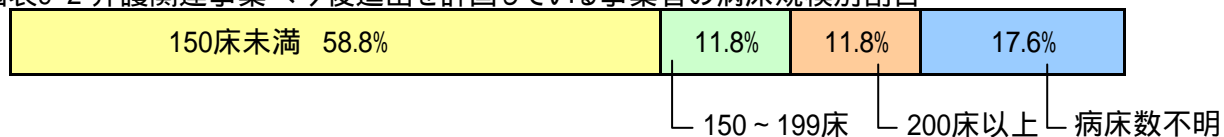
図表8 介護関連事業を行っている事業者の今後の取組方針



図表9-1 介護関連事業を行っていない事業者の今後の進出計画



図表9-2 介護関連事業へ今後進出を計画している事業者の病床規模別割合



4. 資金調達動向について

- ・現在の資金調達に関する満足度を見ると、「十分満足」と「概ね満足」を合わせた満足の割合が55%と、「少し不満」と「非常に不満」を合わせた不満の割合の21%を大きく上回っている(図表10-1)。
- ・資金調達のうえで、どのような点に満足(不満)を感じているのかを分析すると、「十分満足」や「概ね満足」と回答した事業者ではどちらも「金利条件」の満足感が高く、次いで「借入期間」となっている。一方、「少し不満」や「非常に不満」と回答した事業者では「担保条件」や「借入期間」に不満が集中している(図表10-1)。
- ・資金調達の満足感を病床規模別に見ると、200床以上の規模の事業者において満足との回答が比較的多くなっている(図表10-2)。
- ・金融機関との現在の取引状況については、「地方銀行」の利用割合が最も高く80%に達し、続いて「リース会社」、「都市銀行」となっている(図表11)。また、現在取引のある金融機関以外の業態の金融機関との取引を新たに検討している事業者が25%あり(図表12)、資金調達先の多様化を模索する意向も伺える。
- ・近年着目される「医療機関債の発行」「診療報酬債権流動化」や「プロジェクトファイナンス」等の新たな金融手法による調達については、現状の活用は少ない(図表13)。また、その他の金融サービスとして、「医療機器リース」や「事務機器リース」は多くの事業者利用され浸透していることが伺えるが、「診療報酬ファクタリング」「不動産リース」といった新たな金融サービスの利用も少ない(図表14)。現状においては、従来型の資金調達手法が依然大勢を占めていることが伺われる結果となっている。

図表10-1 現状の資金調達に対する満足感および満足(不満)を感じる点

	割合	(満足(不満)の内容、複数回答)						
		金利	借入期間	担保	手続き	経営指導	情報提供	その他
十分満足	9.6%	39.3%	28.6%	3.6%	25.0%	0.0%	7.1%	3.6%
概ね満足	45.4%	48.5%	39.4%	20.5%	27.3%	5.3%	8.3%	1.5%
どちらでもない	17.9%	-	-	-	-	-	-	-
少し不満	15.8%	23.5%	41.3%	43.5%	19.6%	10.9%	17.4%	6.5%
非常に不満	5.5%	4.5%	37.5%	62.5%	18.8%	6.3%	31.3%	25.0%
未回答	5.8%	-	-	-	-	-	-	-
合計	100.0%	-	-	-	-	-	-	-

図表10-2 病床規模別の資金調達満足感

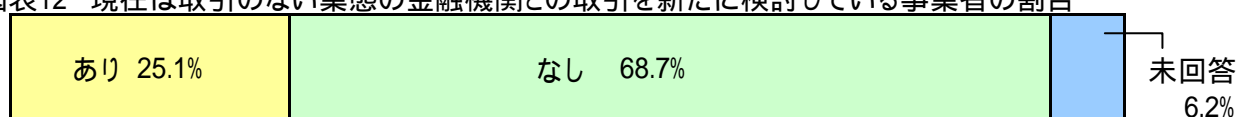
	満足	どちらでもない	不満	未回答	合計
150床未満	48.6%	21.5%	18.7%	11.2%	100.0%
150～199床	49.5%	15.1%	24.7%	10.7%	100.0%
200床以上	60.7%	13.5%	16.9%	8.9%	100.0%

満足 = 十分満足 + 概ね満足、不満 = 少し不満 + 非常に不満

図表11 現在の取引金融機関の状況(複数回答)

	取引あり	取引なし	未回答	合計
都市銀行	47.8%	38.5%	13.7%	100.0%
地方銀行	80.1%	12.7%	7.2%	100.0%
信金・信組	36.1%	47.4%	16.5%	100.0%
保険会社	19.2%	61.5%	19.3%	100.0%
リース会社	62.2%	23.7%	14.1%	100.0%
政府系金融機関	40.9%	45.0%	14.1%	100.0%
その他	3.1%	55.7%	41.2%	100.0%

図表12 現在は取引のない業態の金融機関との取引を新たに検討している事業者の割合



図表13 各種金融手法の活用実績(複数回答)

	実績あり	実績なし	未回答	合計
医療機関債の発行	2.1%	90.7%	7.2%	100.0%
診療報酬債権の流動化	8.9%	84.2%	6.9%	100.0%
プロジェクトファイナンス	0.7%	91.4%	7.9%	100.0%
シンジケートローン	5.5%	86.6%	7.9%	100.0%
その他	1.0%	62.2%	36.8%	100.0%

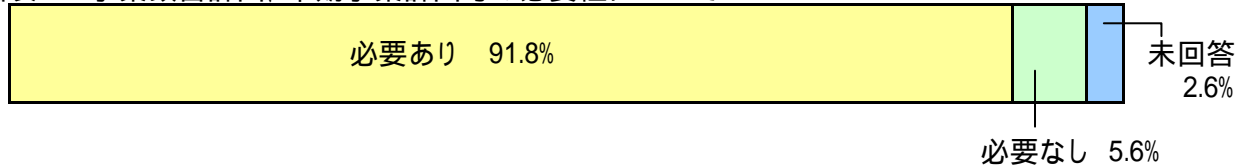
図表14 その他金融サービスの利用実績(複数回答)

	取引あり	取引なし	未回答	合計
医療機器リース	91.2%	8.5%	0.3%	100.0%
事務機器リース	84.6%	14.4%	1.0%	100.0%
不動産リース	7.5%	91.2%	1.3%	100.0%
診療報酬等ファクタリング	4.6%	93.8%	1.6%	100.0%
その他	0.7%	63.7%	35.6%	100.0%

5. 事業改善計画について

今後の病院経営に関し、事業改善計画や中期事業計画の策定については、回答事業者のほとんど(92%)がその必要性を感じており(図表15)、また、策定事業者の過半が病院事務局単独での策定と回答しているが、外部コンサルタントを活用するケースも27%に達している(図表16)。

図表15 事業改善計画、中期事業計画等の必要性について



図表16 事業改善計画、中期事業計画等の必要ありと回答した法人の実際の策定状況

